

平成26年度農作物病害虫発生予察情報 注意報 第2号

平成26年 7月10日
秋田県病害虫防除所

斑点米カメムシ類の発生が多い ～畦畔・農道、休耕田等の除草を徹底してください～

- 1 病害虫名：斑点米カメムシ類 2 発生作物：水稻
3 発生地域：全県 4 発生量：多い

5 注意報発表の根拠（現在までの発生状況と今後の発生予想）

- (1) 7月2半旬の巡回調査（畦畔40回すくい取り調査）における斑点米カメムシ類の発生地点率は48%（平年59%）でやや低く、すくい取り数は平均17.1頭（平年6.8頭）で多かった。そのうち、アカスジカスミカメは9.4頭（平年1.4頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメは7.7頭（平年4.1頭）であった（表-1）。
- (2) 発生は県内全域で確認されている（図-1）。特に、出穂しているイネ科雑草が見られる畦畔ですくい取り数が多かった（表-2）。
- (3) 7月2半旬の巡回調査における水田内の雑草発生地点率は、ノビエが54%、カヤツリグサ科雑草が72%であった。これらの雑草が出穂するとアカスジカスミカメの本田侵入を助長し、被害が甚大となる。
- (4) 県内6地点の予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺状況は、平年と比較して多く推移している（図-2、3）。6月6半旬から7月1半旬の平均誘殺数の合計はアカスジカスミカメが18.5頭（平年3.0頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメが45.5頭（平年17.7頭）でいずれも多かった。
- (5) 7月3日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い、降水量は平年並と予報されている。
- (6) 以上のことから、水田周辺での斑点米カメムシ類の発生は更に多くなると予想され、イネの出穂前に斑点米カメムシ類の増殖源をなくす必要がある。

6 防除対策

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の穂や葉鞘に産卵して増殖するため、畦畔や農道の除草を徹底し、密度低減を図る。

- (1) 畦畔や農道の草刈りは、イネの出穂10日前（平年では7月25日頃）までに実施する。8月には出穂期10日後頃の茎葉散布剤の散布直後から散布7日後までに畦畔や農道の草刈りをし、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草の除去に努める。その後、草刈りをする場合はイネの収穫2週間前以降に行う。
- (2) 水田畦畔刈り込み代用剤を散布すると40～50日の抑草効果が期待できる。
- (3) 法面や休耕田等の雑草地はイネの出穂10日前までに草刈りをし、その後の草刈りはイネの収穫2週間前以降に行う。
- (4) 水田内のノビエやホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草の除草を徹底する。除草剤の使用にあたっては使用時期に注意する。
- (5) 斑点米カメムシ類の発生が多いことから、本年の茎葉散布剤による防除は出穂期10日後頃と同24日後頃の2回散布を基本とする。散布計画の策定と薬剤の準備を早めに行う。

7 資料

表-1 畦畔での斑点米カメムシ類すくい取り結果(7月2半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	すくい取り数(頭)	地点率(%)	すくい取り数(頭)	地点率(%)	すくい取り数(頭)	地点率(%)
2014	17.1	48	9.4	30	7.7	36
平年	6.8	59	1.4	14	4.1	48
概評	多	やや少	多	多	多	やや少

表-2 畦畔雑草の発生状況別のすくい取り結果(7月2半旬)

雑草の発生状況	雑草発生地点率(%)	アカスジカスミカメ(頭)	アカヒゲホソミドリカスミカメ(頭)
除草が徹底されている	14	0	0
除草しているが、新葉が伸びている	36	4.0	0.7
出穂しているイネ科雑草がある	50	31.1	24.3

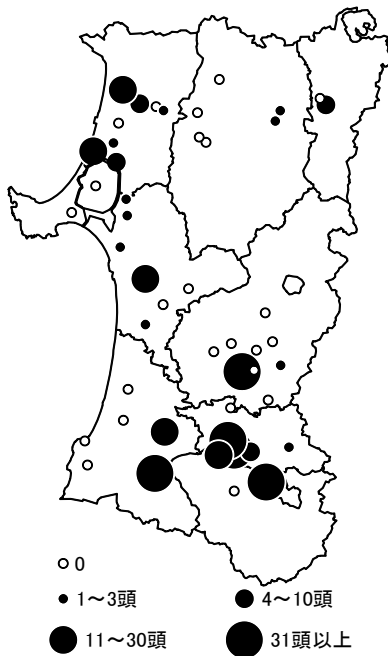


図-1 畦畔での斑点米カメムシ類のすくい取り数

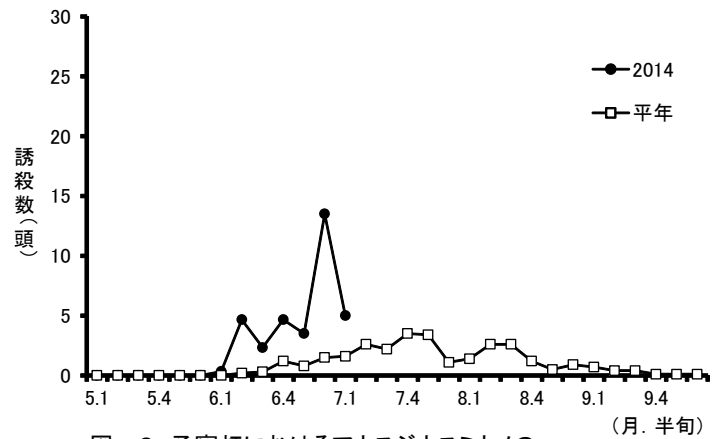


図-2 予察灯におけるアカスジカスミカメの誘殺消長(県内6地点の平均値)

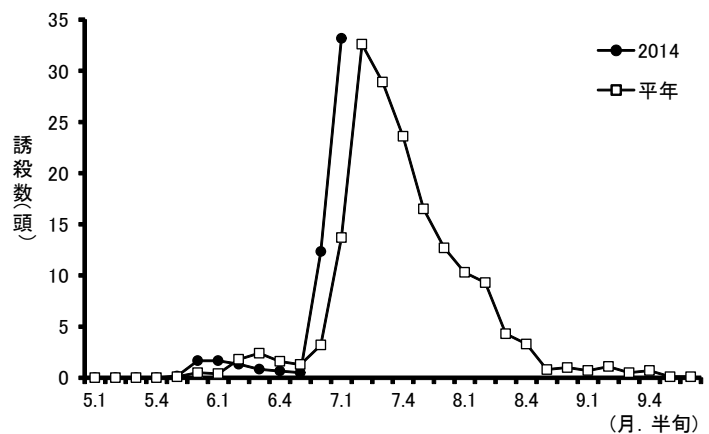


図-3 予察灯におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺消長(県内6地点の平均値)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>